**（関西ベンチャー学会 第16回年次大会）**

**会員研究発表の概要**

**発表者　赤 松 裕 二**

**（大阪市立大学 大学院）**

**Ⅰ．発表題目： 「国内楽器産業の製品戦略と技術の伝承**

**－フルート製造業を事例とした考察－」**

**Ⅱ．発表の概要**

**１．研究の背景と目的**

日本の楽器産業は、1960年から70年代の国内における楽器の普及にともなって成長を続け、国内市場で育成された日本のメーカー各社は戦後の輸出貢献産業として国際的にも評価されてきた。1960年頃よりヤマハをはじめとする楽器メーカーが全国に音楽教室を展開し、高度成長期における「一億総中流」の意識の下で、一般家庭の子女が競って音楽を習い高価な楽器を購入したことが背景となっている。

しかしながら、近年では少子化の影響と個人の価値観や趣味の多様化にともない、国内における楽器産業各社の販売は低迷しており、顧客層の拡大や新機能の製品開発、新たな付加価値の創出によって訴求力を高めようとしている。

　　国内の楽器メーカーのうちフルート製造業においては、総合メーカーであるヤマハのほかは中小メーカーが大部分であり、数人規模の零細業者も多いのが特徴である。日本におけるフルート製造は、1924年に村松孝一([[1]](#endnote-1))よって国産第１号のフルートが製作され、1938年頃からは日本管楽器（ニッカン）([[2]](#endnote-2))がフルートを製造していたとされる。

西洋楽器としては国産による古い歴史を有しており、これらのメーカーから独立した職人によって新たな工房や会社が創業され、近年まで国内にフルートメーカーの起業が続いてきた。製品の完成度の高さから、海外の著名な演奏家が好んで日本の製品を購入しており、日本のフルートメーカーは1980年前後から国際的な高い評価とシェアを得ることとなった。そして、企業規模は中小・零細業者であっても、日本のフルートメーカーのなかには国際的評価を得ている楽器ブランドも多く存在している。

　　本研究では、「フルート製造業」が西洋楽器の分野において日本企業が品質的に高い評価を受け、新興国企業が台頭する現在でもその地位を維持していることに着目し、製品開発の歴史と技術の伝承、起業に至る人材の背景に焦点を当てて考察することとした。その考察の目的としては、手工業品での安定した品質の製品提供と量産体制、グローバ　　　ルニッチトップと称せる技術の優位性、擦り合わせとモジュール化による価格とクオリティの安定化といった要素を確認することである。また、次代のニッチな産業分野での成長要素を検討し、起業者の人材育成や経営面での環境を考察する。

**２．発表の要旨**

**（１）国内フルート製造業界の状況**

　　フルート製品は、ハンドメイド高級品のフラッグシップ製品と低価格帯のスクールバンド用製品に分けられる。近年、中国製の廉価品が輸出市場で競合し、品質面での優位性のみでは価格面で対抗できない状況にある。新興国市場においての価格競争力では中国製に大きく劣後し、アメリカの主要メーカーも中国社に買収されるなど、日本製であることの品質面での訴求力も弱まりつつある。国内市場では少子化による学生・生徒向けの楽器需要は低下傾向にあることから、成人向けの趣味のフルートとして特殊性を加えた高額品の比率が高まり、メーカー側も積極的に新モデルなど（997銀などの新素材）の付加価値を高めた製品を市場に投入している。

**（２）技術の伝承（日本のフルート製造業者の系譜）**

　　楽器製造業界では長期雇用や長期取引に基づく慣行から、自社内での技術者の育成として技術・技能の伝承が行われ、外部調達先についても長年の取引継続による技術の蓄積が存在する。また、技術を習得した人材の一部は独立起業し、新たな製品のコンセプトによって新規ブランドとして立ち上げてきた。

現在までの日本のフルートメーカーの系譜は独立・起業の歴史であり、多くのケースで製造と販売が分離していることから、楽器店や卸業者の支援を受けさえすれば、個人の技術力のみで比較的容易に創業できたものといえよう。また、零細業者に至っては、個人に直接販売する受注生産の直販体制をとる業者もみられ、ニッチな産業分野であるだけに特殊な取引形態も多くみられる。

**（３）「ものづくり」としての製品戦略**

日本企業の強みであるインテグラル型産業での擦り合わせ能力の優位性が、国内フルート製造業者での開発、生産プロセスに大きく影響し重要な要素となっている。また、生産コストの低減を狙った外注先とのサプライチェーンの確立、業界としての規格共通化やモジュール化により、安定した品質と価格水準を維持できている。

　　部品類の調達においては、銀製や金製の貴金属の管体（パイプ）の調達が共通化されるとともに、管メーカーとの擦り合わせによる新素材の開発（997銀や24金パイプ）が行われている。また、楽器細部の部品においても、従来は企業内における鍛造や削り出しの内製であったが、現在は多くが外部調達後に最終加工されており、　仕上げの銀メッキ加工なども外注による効率化が進んでいる。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 以 上

1. () ムラマツフルートの創始者である。 [↑](#endnote-ref-1)
2. () 明治期から軍楽隊用楽器を製造していたが、1970年にヤマハによって吸収合併された。 [↑](#endnote-ref-2)